

## 農作物の当面の技術対策

令和4年6月24日  
農業技術課

### 1 気象状況

関東甲信地方では、6月6日に梅雨入りしたと見られるが、6月中旬の降水量は平年比約30%以下と少ない雨量で経過しています。

この先の週間予報では「晴時々曇」となっていますが、猛暑日(35℃)に近い気温で経過する予報となっています。今後の気象推移に注意し、農作物の管理には注意して下さい。

#### <降水量の推移>

	甲府		勝沼	
	R4 降水量	平年比	R4 降水量	平年比
6月上旬	35.1mm	149.8%	18.0mm	71.1%
6月中旬	12.0mm	27.0%	9.5mm	22.7%

#### <週間予報 6月24日11時発表 甲府地方気象台>

山梨県の天気予報(7日先まで)									
2022年06月24日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 24日(金)	明日 25日(土)	明後日 26日(日)	27日(月)	28日(火)	29日(水)	30日(木)	01日(金)	
山梨県	晴時々曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/-/10/10	10/10/10/10	20	40	30	20	20	30	
信頼度	-	-	-	B	B	A	B	C	
甲府 気温 (℃)	最高	34	33	32 (31~36)	36 (34~39)	36 (32~39)	36 (34~39)	37 (34~39)	37 (32~39)
	最低	-	24	22 (21~25)	22 (20~24)	23 (21~25)	23 (21~25)	23 (21~25)	23 (21~26)
向こう一週間(明日から7日先まで)の平年値									
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温			
甲府 平年並 13 - 35mm				20.4℃		29.1℃			

### 2 技術対策

#### 果樹

- ・乾燥している場合には、乾燥防止対策として、定期的な灌水に努める。(成熟期の園では約5日間隔で20mm、果実肥大期の園では4~5日間隔で30mm、収穫後の園(施設栽培を含む)では約7日間隔で30mmを目安とする)

※但し、収穫前の園では一度に多量の灌水は、果実品質の低下を招くので避けるとともに、収穫5～7日前からの灌水は控える。なお、灌水は気温が下がる夕方等に行う。

- ・樹冠下は敷ワラ、敷草を実施するとともに、草生栽培園では草刈を励行する。
- ・灌水施設等のない園は、樹冠下を中心に1樹当たり200～300リットル灌水する。
- ・アザミウマ類やハダニ類の発生が多くなることが懸念されるため、定期的な防除を徹底する。

#### <モモ>

- ・着色期の過度な葉摘みや新梢(徒長枝)の剪除は避ける。
- ・反射マルチを敷く前に灌水を行う。
- ・反射光の強いマルチは、日焼け果などが起きやすいので、白色マルチを使用するか、反射マルチを敷く量や反射程度(古いマルチや裏面使用)を調節する。着色が進み次第マルチは除去する。
- ・下垂枝への支柱やつり上げにより、反射マルチとの距離を確保する。
- ・日持ち性向上のため、収穫は気温の低い朝に行う。
- ・果実硬度2～2.5kgを目安に適熟収穫に努める。なお、最高気温が35℃前後になると、着色が遅延する傾向があるため、熟度に注意して収穫を行う。

#### <ブドウ>

- ・着色始めの品種では、果房が高温にならないよう、過度な新梢の切除や摘葉を控え、必要以上に棚面を明るくしない。
- ・高温が続く場合は着色不良になりやすいので、早めの除袋を行うが、果房に直射が当たる場合は、クラフト紙・不織布のカサかけや誘引の見直しを徹底する。
- ・結果過多園や樹勢低下樹では、早めに見直し摘房を行い、着色向上に努める。なお、玉張りが良好な園では、結果過多とならないように注意する。
- ・新梢伸長が続いている樹は、ベレーゾン期前か、着色が全体に回った時期に、新梢先端の摘心と副梢を2～3枚残して摘心し、着色向上と養水分の競合を防止する。

#### <スモモ>

- ・収穫期に高温が続く場合、過熟果の発生が心配されるので、着色にとらわれず、果実の弾力と熟度を優先した収穫に努める。

## 野菜

- ・草勢が極端に落ちている場合には、草勢の回復を図るため、必要に応じて液肥の葉面散布を行う。
- ・アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガなどの害虫による被害が増加することが懸念されるため、ほ場での発生に注意し、発生初期の防除に努める。
- ・スイートコーンでは、採り遅れにならないよう適期に収穫する。

## 花き

- ・アザミウマ類、ハダニ類などの害虫による被害が増加することが懸念されるため、発生状況を把握し、初期防除に努める。

### (施設花き)

- ・寒冷紗などで、強めの遮光をするとともに、強制換気に努め、葉面温度の上昇を防止する。
- ・朝夕に灌水を行う。

### (露地花き)

- ・敷きワラ、敷き草を行い、朝夕に灌水を行う。

## その他(熱中症対策)

暑熱環境下での作業は、熱中症(熱射病、熱けいれん、熱まひ)を生じる恐れがあるので、次の事項に注意する。

- 気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の作業時間を工夫する。
- 水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装を着用する。
- 作業場所には日よけを設ける等、できるだけ日陰で作業する。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。
- 作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか、断熱材で隔離し加熱された空気は屋外に排気する。